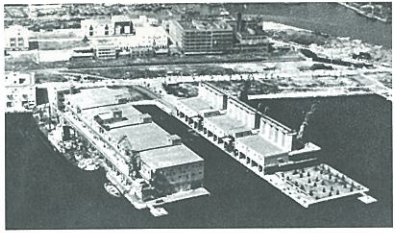
昭和35年頃の神戸港　戦後の貿易の伸長に伴って港湾施設の充実を図るため、灘埠頭、新港第7・8突堤の建設が進められた。

兵庫第3突堤の建設（昭.33.10 着工、昭.40.10 竣工）
石炭専用埠頭として計画されたが、取扱量の減少から輸入バナナを取り扱うことになり、昭和40年2月バナナ専用上屋が建設された。

昭和40年頃の中突堤
淡路島、四国、九州を結ぶ旅客船の発着場として賑わっている。
突堤先端の西側バースには沖縄航路定期船が発着し、昭和47年5月の沖縄復帰までは旅具検査で多忙を極めた。

ポートタワーの建設
（昭.37.8 着工、昭.38.11 竣工）
世界でも珍らしい突堤上に建設されたタワーで、108mの頂上からは港の動きがよくわかるので、毎日多数の人々が訪れている。



第7突堤の建設　(昭.31.6竣工)
輸入食糧の増加に伴い、専用埠頭として穀物サイロが建設された。

完成したポートターミナル　(昭.45.4竣工)
税関、入国管理事務所の他、銀行、レストラン、免税売店等が設けられ、パッセンジャーターミナルを形成している。

完成間近い摩耶大橋　(昭.41.6竣工)
神戸で海を渡った最初の橋、ヤジロベエ型の珍らしい構造をしている。

摩耶埠頭の建設　(昭.34.4着工、昭.42.3竣工)
輸出優先の大型埠頭として建設され、水深10～12mを有している。第4突堤には我が国初のコンテナバースが設けられ、昭和42年9月19日コンテナ第一船"ハワイアン・プランター"が入港した。